

COLLEGE INFORMATION



甲子園短大通信

甲子園短期大学 発行

甲子園短期大学は、昭和三十一年四月に前学院長久米利男先生により開学されました。本学の母体は昭和十六年、校祖久米長八先生によって創立された甲子園高等女学校にあります。先生は「国家発展の原動力は女性」であるとの教育の基本を示されました。現在は、理事長・学院長久米知子先生のもと教職員一丸となつて本学教育の充実と発展に努めておりますので、新入生並びに在学生の皆さんの精進を期待致します。さて、大学教育にはその創立及び



今年度の入学式は四月五日、甲子園学院理事長・学院長久米知子先生はじめ、ご来賓の方々のご臨席のもと、学院高校講堂において執り行われました。早坂三郎学長から次のような式辞がありました。

平成三十年度
入学式

教育・研究上の目的の基盤である「建学の精神」が重要ですが、本学は校祖久米長八先生が教育の根幹に据えられた学校法人甲子園学院の校訓三綱領「**勉学努力**」「**和衷協同**」「**至誠一貫**」を建学の精神とし、豊かで幅広い教養教育により人間性を培い、専門的な知識と技能を研鑽する高等教育機関として発展してきました。その建学の精神である「**勉学努力**」とは、ゆるみがちな心を引き締め、自覚を呼び起こし自ら努力すること。「**和衷協同**」とは、和やかに真心を込めて力を合わせることを。「**至誠一貫**」とは、誠実に真心を貫くことを意味しています。これらは時代・世相の変遷を経た現代及びこれからの社会を生きる我々に、学び方として生き方の指針となる訓えと言えます。この「建学の精神」のもと、幅広い一般教養科目と専門的な知識・技能が修得できる専門科目で構成される教育課程が編成されており、誠実に努力を積み重ね、明日の社会の発展に貢献できる人材の育成を使命として、資格取得、そして卒業、就職への途を指導・支援しています。また資格取得選択の自由度が高い生活環境学科にはライフキャリアフィールドと介護福祉フィールドを設置しており、幼児教育保育学科には教職並びに保育指導への独自のプログラムを用意しています。更には、これからの少子高齢化社会に備えて、生活及び活動場面への教育と福祉教育もその基盤に加え、本学の総合教養科目の特徴の一つである特別演習等により、来るべき変革社会への対応性を高めております。

二年間はあつという間に過ぎていきます。その中で自らの目的のもと積極的に努力する姿勢と実践力、豊かで思いやりのある人間関係と素直に聴き受け容れる誠実さを以て、有意義で楽しい大学生活を送られますことを心から期待します。これを受け、新入生代表の前田ひとみさん(幼児教育保育学科)からお礼の言葉と「これまで温かく見守り導いてくださった方々への感謝の気持ちをお忘れず、校訓三綱領「**勉学努力**」「**和衷協同**」「**至誠一貫**」の建学の精神を胸に、知性と教養を身につけて心豊かな女性になれるよう努めて参ります」との宣誓がありました。

生活環境学科
介護福祉士国家試験全員合格

本学の学生が、平成三十年一月二十八日に介護福祉士国家試験を受験しました。平成二十九年年度から介護福祉士養成校の卒業見込み者も国家試験が義務付けられたため、第一回目の受験となりました。介護福祉士国家試験は、午前と午後に分けて総時間二百二十分、出題数が一二五問に對し、総得点の六十%程度を基準としています。そして「十一科目群」すべてで最低一問は正解することが必要です。今回の第三十回試験では七十七点が合格基準点でした。学生たちは準備を重ねて、教員も個別指導や対策講座など早い時期から実施し、更には模擬試験も本番さながらに何度も繰り返し行いました。当日、学生たちは早朝から集合時間

進級間もない四月六日に、II回生はバスで高野山研修に行きました。短大付近ではもう桜が散り始めていました。高野山の桜はちらほら咲き始めたばかりで桜前線を逆戻りしたかのようでした。学生たちは荘厳な雰囲気の中、参道を進み、甲子園学院故郷慰霊塔に参拝しました。校祖先生のご遺徳を偲び、学院関係者の霊を慰め、建学の精神の実践を誓い、社会への巣立ちに向けてさらなる学びを深める決意を一人一人が報告しました。その後散策し、清浄な霊域の自然に触れて心落ち着くひと時を過ごしました。昼食には、高野山に現存する最も古い建立物の多宝塔がある金剛三昧院で、精進料理を美味しくいただきました。雨が降っていましたが、食後は金剛三昧院の境内や付近を散策し、神聖な高野山を堪能しました。帰路のバスでは会話が弾み、学生同士の親睦が図られました。

幼児教育保育学科
手遊び実践隊

教育実習を控えたII回生が五月に、初めての保育実習を控えたI回生が六月に、保育技術の向上を目指して「手遊び実践隊」と名付けた手遊びの模擬保育を行いました。学生たちはオフィスアワーの時間に先生方の部屋を訪問します。手遊びの内容を説明し、一緒にしてみることができても、人に伝えることは難しく緊張しました。でもうまく伝わり一緒に楽しめたときの喜びは大きかったです。また見ていただいた先生方からは、感想やご指導をいただき、学生の励みとなりました。II回生からは「手遊び実践隊でいろいろな先生に見てもらえたから、幼稚園の子どもたちと一緒に笑顔ですることができました」と嬉しい報告がありました。またI回生からは「覚えた手遊びを保育実習でするのが楽しみです」との感想がありました。この「手遊び実践隊」の経験が自信となり、子どもたちと一緒に笑顔で手遊びを楽しみ、それぞれの実習の成果につながることと思います。

高野山研修

高野山に現存する最も古い建立物の多宝塔がある金剛三昧院で、精進料理を美味しくいただきました。雨が降っていましたが、食後は金剛三昧院の境内や付近を散策し、神聖な高野山を堪能しました。帰路のバスでは会話が弾み、学生同士の親睦が図られました。

甲子園短大通信 第85号

〒663107 西宮市林町四番三三号
TEL:079-651-3300 FAX:079-651-9101
http://www.koshien-c.ac.jp

吾輩は犬である

特任教授 末田 啓二



吾輩は犬である。名前は既にある。「ココ」である。ココシャネルからとったのはなく、どうやら主人の趣味である菜園で育てたミニトマトの品種名に由来するらしい。生後二か月のかわいい女の子のイメージにもピッタリの子犬だったらしい。でもその後男の子だと判明したが、名前はそのまま残された。ミニチュアシユナウザー、小型の室内犬である。ご近所の評判はすこぶる良く、どこへいっても「かわいい」「お利口」と頭を撫でてくれる。主人はやっかみ半分に、ココはそとづらが良いすぎる、家では暴君そのものだけに……。

My Favorites

十歳になった現在、健康そのものである。朝夕二回の散歩、食事はいつも完食、あとはボール投げの要求。主人が何をしようが一切お構いなし。しかし不思議となんでも要求が通ってしまう。いや無理やり通しているのかもしれない。あとは大の字になってソファでごろり。いやはやここ(ココ)は天国ですわ。でも吾輩だつて主人に大いに貢献している。まず近所づきあい広まったこと。今までは挨拶だけで終わっていた人にも吾輩という話題ができて少々の立ち話ができるようになった。また遠くまで出かけるので、多くの犬友達ができただけで、うれしそうに主人を見てると吾輩も鼻が高い。だから家の中のわがままは許されて当然だと思つている。以下はわが主のいつものポヤキと云うか、述懐のコトバです。――

世はペットブーム、とりわけネコブームである。「吾輩は猫である」にあるように、猫は極めて手前勝手な自己中である。猫が好まれるのは人に媚びない、わが道を行くあの図々しさが実に魅力的に感じられるからかもしれない。とりわけ会社勤めのサラリーマンにはたまらなく羨ましいからだろう。「吾輩は猫である」ではなく、「吾輩は猫になりたい」である。それに引き替え犬はどうかと言うと、実に世話がかかる。家人を気にするから、こちらにも気遣つてやらねばと妙な親心がそこに働く。



犬の性格も時代とともに変わってきたように思う。庭に手作りの犬小屋を建て、人の食べ残したものを汁かけごはんにして与え、縁側からは一歩も家の中に立ち入らせないようにして育てた。人と犬とは明確に区別されてきた。しかし今は多くは室内犬で、ゴールデンのような大型犬でさえ室内を闊歩している。家人の一人のような扱いになっていて、多くは人間と対等の関係、あるいはそれ以上の関係になっている。挙句の果ては我が家のような惨状が出現する。写真もほとんどが飼い犬とのツーショット、家人の中で最も存在感がある。かつての「ネコかわいいがりは、今では「イヌかわいいがりに」変身してしまつた。このように育ててきた主が悪いのか、親の心、子知らず、ばやくことしきり。

高校生エッセーコンクール募集

本学では平成二十七年年度から「高校生エッセーコンクール」を開催しています。今回のエッセーコンクールでは、将来の進路について、夢や希望、迷いや不安など様々な思いを抱いている高校生が、家庭や学校あるいは地域や社会、そして国内外において、いろいろな視点から自己理解のもと進路をどのように考えて設計し、将来、自己実現や社会貢献を果たしていくかについて考える機会にしたいと思っています。高校生エッセーコンクールへの応募が、それぞれの未来像の発見の機会となることを願つて、力作が集まることを期待しています。

【募集要項】

- テーマ…「私の職業選択と社会貢献」
- 応募資格…高等学校在校生
- 募集エッセー内容…応募エッセー作品は未発表でオリジナルな内容に限ります。文体は自由ですが、四〇〇〇～六〇〇〇字にまとめてください。
- 募集期間…平成三十年九月二十八日(当日必着)まで
- 審査員…甲子園短期大学長、同学長補佐、学生部長
- 入賞発表…平成三十年十月十二日
- 表彰式…平成三十年十月二十一日に甲子園短期大学大学祭にて行います。
- 優秀賞(二点)…表彰状及び副賞として一万円相当の図書カード
- 奨励賞(若干)…表彰状及び副賞として五千円相当の図書カード
- 尚、各賞の受賞数は応募数等により変わる場合があります。



甲子園短大通信 第85号
(編集・発行)甲子園短期大学広報委員会
〒663107 西宮市林町四番三三号
TEL:079-651-3300 FAX:079-651-9101
http://www.koshien-c.ac.jp

甲子園短期大学 夏のオープンキャンパスに 参加しよう!

8月5日(日)、25日(土)10:00~13:00

参加特典

- ① 参加者全員にオリジナルボールペンプレゼント
- ② 参加後にスマートフォンから簡単なアンケートに答えてQUOカード500円分プレゼント
- ③ 遠方から参加の希望者には、参加前日に学生寮(個室)への無料宿泊プレゼント(食事なし) 事前予約必要、受付先着順(保護者同伴可、但し女性のみ)



学生寮外観

室内

二〇一九年度の学生募集は、来年度元号改正に伴う混乱を避けるため西暦表記を主に使用しています。生活環境学科、幼児教育保育学科共に定員八十名。「AO入試」指定校推薦入試「推薦入試」「専門学科・総合学科推薦入試」「一般入試」「社会人入試」の区分で実施します。六月一日からAO入試一期のエントリー受付が開始されており、エントリーシート、「自己報告書」の提出後に事前面談を実施し、出願の可否を判定します。推薦、一般入試では、「筆記検査方式」「自己推薦方式」「資格方式」「幼児教育保育学科のみ「音楽実技方式」を加えた中からいずれかの方式を選択し選考を行います。

2019年度 甲子園短期大学入試日程

区分	エントリー・出願期間	事前面談・入試日
AO1期	6/1 ~ 6/29	7月8日
AO2期	7/2 ~ 7/31	8月5日
AO3期	8/1 ~ 9/4	9月9日
AO4期	11/1 ~ 11/19	11月22日
AO5期	2/1 ~ 2/14	2月16日
指定校推薦	9/18 ~ 10/4	10月13日
推薦1期	10/1 ~ 10/18	10月25日
推薦2期	11/1 ~ 11/18	11月22日
推薦3期	12/3 ~ 12/13	12月19日
一般	1/15 ~ 2/4	2月12日
社会人前期	12/3 ~ 12/13	12月19日
社会人後期	2/1 ~ 2/13	2月16日

出願者に対して検定料や入学金の減免制度等の特典があります。詳しくは、本学ホームページ、二〇一九年度「学生募集要項」をご覧ください。オープンキャンパスでの入試相談にお越しください。

園芸療法

「園芸療法って花を育てること?」確かに花を育てるように植物のある環境を通して人を慈しみ、健やかに暮らす援助をするのが園芸療法です。なるほど。でも、いき植物を育てると、「毎日水遣りをするのは大変だし虫が来るのは嫌だし」と、多くの学生は口にしてます。ところが、できた作物を収穫して食べる、「美味しい!」、咲いた花を見る、「きれい!」と言います。このようにして、園芸実習場に足を運ぶのも少しだけ嫌ではなくなった頃、フィールドワークに行きます。

フィールドワーク



「魏飯夷堂」大阪店にて

特製ミニコースを味わい、五感で現地体験することで多くの知識を得ることができました。「テーブルコーディネート」の授業では、他にもフラワーアレンジメントの先生の先生による実技指導や、西洋料理のシェフによる料理指導やパティシエの企画実施の実習なども行っています。「フードコーディネーター論」では京都老舗の和菓子職人に京菓子づくりを教える機会もいただきました。先生の見本に近い綺麗な花の型を創る学生もいました。それぞれの創作和菓子を煎茶とともに味わい、家に持ち帰る和菓子も楽しく創りました。

五感で学んだ「テーブルコーディネート」

「テーブルコーディネート」

生活環境学科ライフキャリアフィールドII回生が「テーブルコーディネート」で魏先生から中国料理を学びました。一回目は本学の調理実習室にて、基本的な中国料理三品(麻婆豆腐・シュウマイ・春巻)の作り方を丁寧に指導していただきました。二回目は先生のお店「魏飯夷堂」大阪店に行き、食材へのこだわりから中国の食文化まで、幅広い内容についてお話いただきました。

ガーデンコンペに参加



テーマガーデン部門 銅賞作品



コンテナ・ハンギング部門 銅賞作品

五月二十五日から二十七日にかけて開催された「第十九回フラワーフェスティバルin西宮」のガーデンコンペに、本学学生が出展しました。「テーマガーデン部門」「花壇」においては、「花の世界」をテーマに赤と白を基調とした色鮮やかで立体的な作品を園芸部が制作しました。「インスタ映え」する作品を目指す作品を指し、来場者が写真撮影できるよう工夫した結果、銅賞を受賞しました。

ボランティアとして参加



五月二十六日には、本学の学生がボランティアとして参加しました。会場に「甲子園短期大学 みんなんな集まれ」と看板を掲げたブースを設置し、「ハーバリウムのワークショップのしおり作り」「パッチングエールの工作」など、参加者が楽しみながら植物に親しめる企画を実施しました。本学のブースは常に満員で、子どもから高齢者まで様々な年代の方が参加してくださいました。今回のボランティア活動を通じて、学生は地域の方々とのつながりを実感したようです。

つ・な・が・り

『夢に向かって』学院高校から短大へ幼児教育保育学科I回生 河野アヤマ 私は、子どもと接することが大好きで、将来は保育園や幼稚園で働きたいという希望を持っています。もともとピアノを弾くことが好きでしたが、甲子園短期大学の連携授業を受け、今までよりも楽しく笑顔で弾けるようになりまし

生活環境学科II回生

西本 澄子



実習の様子

介護福祉フィールドでは「利用者の尊厳を尊重し、その人らしく、穏やかな生活ができるよう」自立支援を目指している施設・事業所等で、二年間で四五〇時間の介護実習が実施されます。今回は五月二十一日から二十四日、介護老人保健施設で実習を行いました。利用者や職員との間で築き上げられた良好な関係や、利用者の心身の状況に応じた介助方法の実践、そして看護師等の他職種や同職種との連携を通じて日々の介護業務等を実際に見学・体験して、しつかり学ぶことができました。利用者との心温まる笑顔に勇気づけられ、有意義な実習時間を過ごすことができました。

実習を終えて

幼児教育保育学科II回生

辻本 瑞季



II回生の模擬保育をI回生が見学している様子

五月二十一日から三週間、幼稚園へ教育実習に行きました。三〜五歳の異年齢の子どもたちが自由に遊んでいる時の関わり方や、子どもがやりたいことを主体として取り組む活動の援助などを観察し、子どもも保育者も学び合える保育を見ることができました。部分保育や全日保育も実施しました。指導案を書くにあたっては、実習幼稚園の先生に何度も相談して、指導いただいた。また週末の実習が休みの日を利用して短大に登学し、短大の先生にも教えていただき書き上げました。自分自身が「ねらい」を持って子どもたちが活動できるように援助すること、子どもたちが一日楽しんで遊び、降園できるように保育することを目標として実習を頑張りました。夏休みには、この二年間での最後の実習となる保育実習へ行きま